

市民主体の文化芸術活動の状況について

本市では、市民（アマチュア・プロフェッショナル・民間企業・NPO法人など）主体による多様な文化芸術活動が活発に行われており、それらの活動およびその担い手は本市の文化芸術環境を支える貴重な存在です。ここに、そのうちの一部を紹介します。

【宮城県芸術協会】

- ・昭和 39（1964）年設立。展示関係、演奏関係、文芸関係、茶会、巡回展の各事業を、一般公開を通して広く県民へ質の高い芸術文化に触れる機会として提供し、宮城県の特色ある文化の創造と発展に寄与するため、毎年「宮城県芸術祭」を開催している。

【大型イベント】

- 定禅寺ストリートジャズフェスティバル
 - ・平成 3（1991）年に初開催。主催は（公社）定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会。
 - ・仙台の秋の風物詩として市民に愛され、全国的にも高い知名度を持つ野外フェスティバル。
 - ・プロ、アマ、年齢などの制限はなく、国内外から多様なジャンルの演奏家が参加。
 - ・市民とボランティアが中心の大型イベントとして、全国の先駆けと言える存在。
- とっておきの音楽祭

○（公社）定禅寺ジャズフェスティバル協会



- ・障害のある人もない人も一緒に音楽を楽しみ心のバリアフリーを目指す野外音楽イベント。
- ・平成 13（2001）年に初開催。主催はNPO法人とっておきの音楽祭。
- ・仙台で生まれた当音楽祭は全国に広がりを見せ、これまで 20ヶ所以上の都市でとっておきの音楽祭が開催されている。

画像：NPO 法人とっておきの音楽祭 とっておきの音楽祭実行委員会 SENDAI HP より

- 仙台ゴスペル・フェスティバル
 - ・平成 14（2002）年に初開催。主催は仙台ゴスペル・フェスティバル実行委員会。
 - ・「歌声」を軸に据えた市民参加型の野外フェスティバル。
 - ・ゴスペルを中心に、様々なジャンルの歌唱グループが全国から参加する。

【市民による音楽・演劇等団体】

- ・音楽の分野では、1976（昭和 51）年に活動を開始した仙台オペラ協会をはじめ、市民オーケストラ・合唱団・吹奏楽団などが活発に活動を行っている。
- ・舞台芸術の分野では、1990（平成 2）年に創立された SCS ミュージカル研究所をはじめとするミュージカル団体や、数多くの劇団・俳優・ダンサーらが活発に活動を行っている。
- ・伊達家歴代藩主が熱心に振興してきた歴史を持つ能楽については、1950（昭和 25）年に設立された仙台能楽協会（現：仙台市能楽振興協会）が、能の公演や体験講座、謡曲大会等を実施している。

【仙台すずめ踊り】

- ・仙台すずめ踊りは、慶長 8（1603）年、泉州・堺（現在の大阪府堺市）から移り住んだ石工たちが、伊達政宗公の前で即興で披露した踊りがはじまりといわれている。
- ・仙台・青葉まつりでは途絶えかけた郷土芸能としての伝統を守るため、伝承者である黒田石材店 17 代当主・故黒田虎雄氏の指導を仰ぎ、「すずめ踊り」を復元。昭和 62（1987）年第 3 回仙台・青葉まつりより『仙台すずめ踊り』としてコンテストを開始し、以降その普及に力を注いできた。
- ・現在は老若男女誰にでも楽しめる踊りとして広く市民に普及し、毎年 5 月に開催される仙台・青葉まつりには踊り手・お囃子方として 5,000 名以上が参加。全国さらに海外にも活躍の場を広げている。



【震災復興にかかる取組み】

- 音楽の力による復興センター・東北
- ・発災から 2 週間後、仙台フィルハーモニー管弦楽団と市民有志が「音楽の力による復興センター」を設立（その後、公益財団法人となり現在の名称に）。3 月 26 日に見瑞寺で行われた第 1 回復興コンサートを皮切りに、被災地における演奏活動を継続的に実施し、その開催回数は令和 4 年 3 月時点で 1,000 回を超えている。



●被災者に楽器を贈る活動

- ・宮城県吹奏楽連盟による「楽器 BANK」の設立（平成 23（2011）年 4 月 5 日）
- ・地元音楽家ら有志による「被災地へピアノをとどける会」の設立（平成 23（2011）年 6 月 9 日）など

●ARCT（アルクト）

- ・舞台人による復興支援のためのネットワーク「Art Revival Connection TOHOKU [当時の略称：ARC>T（アルクト）]」が平成 23（2011）年 4 月に発足。
- ・震災後の 2 年間で数百回におよぶアウトリーチ活動を行うなど、中間支援組織としての役割を担った。現在も活動を継続している。

●国境なき劇団

- ・阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震を契機として立ち上がった舞台芸術団体。大阪の DIVE、仙台の ARCT、熊本の SARCK の三団体により、平成 30（2018）年に第一回を実施した「The First Action Project」（略称：TFAP）を経て結成。上記三団体を核とし、活動に賛同・協働する日本全国の演劇人や劇場、舞台関係者などで構成される非営利団体。

●オモイデアーカイブ

- ・NPO 法人 20 世紀アーカイブから一部の活動を分離した「オモイデアーカイブ」は、震災前の写真の収集・利活用やアーティストの作品をとりいれ、ツアーなどにより、津波被災地のかつての暮らしを知る活動を行っている。



画像: 3.11 オモイデアーカイブ HP より

●「震災学」の発行

- ・東北学院大学は、地元出版社の荒蝦夷とともに、平成 24（2012）年に冊子「震災学」を創刊し、現在で 16 号まで刊行された。被災地にある大学として、文芸の分野から東日本大震災と向き合いつづけている。

●せんだいわらアート

- ・平成 27（2015）年、地下鉄東西線の開業を記念して若林区まちづくり協議会と協力してスタート。若林区内の被災農地の稲わらを使用した「わらアート」の制作を行っている。一般社団法人 ReRoots による実行委員会を設立し、仙台市農業園芸センターを拠点に「わらアート」の展示やフォトコンテストなども実施。展示期間中に数万人規模で観覧に訪れる地域に根差した人気イベントに成長している。

【障害者の文化芸術活動への支援】

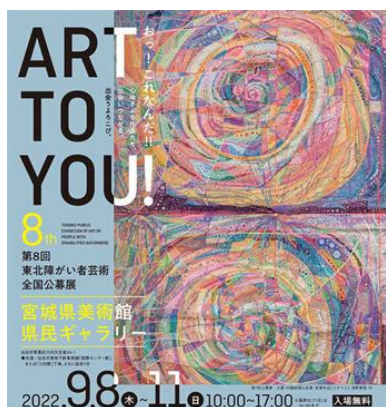
●福祉まつりウエルフェア

- ・障害のある方の作品展など文化・芸術活動の発表の場として、勾当台公園市民広場、いこいのゾーン、一番町商店街で障害のある方のステージ発表や販売会、作品展等を開催している。
- ・昭和 56（1981）年に初開催。主催は仙台市、社会福祉法人仙台市障害者福祉協会、仙台市知的障害者関係団体連絡協議会、特定非営利活動法人仙台市精神保健福祉団体連絡協議会。



●Art to You!東北障がい者芸術公募展

- ・障害のある方の芸術作品を公募し、入選作品を展示する展覧会。
- ・主催は東北障がい者芸術支援機構。平成 27（2015）年から開催。
- ・当初は東北の在住者及び出身者を対象としていたが、令和元（2019）年の第 5 回以降は全国を対象として公募を行っている。



画像：(公財)東北障がい者芸術支援機構 HP より



●障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市

- ・平成 30（2018）年度からはじまった「障害のある人と芸術文化活動」に関する多様な個人・団体・活動を紹介する見本市。特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパンが中心に開催。



【各種展覧会・民営施設】

●河北美術展

- ・東北美術界の興隆を願い、昭和8（1933）年に創設された。国内でも有数の伝統を誇る公募美術展として現在まで続く。令和5年5月に第84回展を開催する。

●河北書道展

- ・東北最大級の書道展。令和5年に第70回を迎える。



画像：東北福祉大学 TFU ギャラリーミニモリ HP より

●杜のみやこ工芸展（旧河北工芸展を継承）

- ・令和2（2020）年度から始まった全国公募展。展示作品は、陶磁・染織・漆・金工・木竹・人形・七宝・革・紙・硝子・硯・布絵・その他の種別に分かれている。

●仙台 21 アンデパンダン展

- ・仙台発・無鑑査の美術展として平成24（2012）年に開始。市内のギャラリーが実行委員会をつくり協力・連携して、平面、立体、映像作品、屋外展示作品、パフォーマンス部門の作品に場を開いている。

●ライブハウス

- ・SENDAI GIGS（定員1,560人）、仙台PIT（定員1,451人）、Rensa（定員700人）など、定員150人以上に限っても10施設を超える民営ライブハウスが運営されている。

●ギャラリー

- ・東北福祉大学の仙台東口キャンパスにある「TFU ギャラリーMiniMori」では、地元メディアや関係団体と連携し、様々な企画展やサブカルチャーにかかる催事を実施している。
- ・作家が運営する形態の展示スペースとして、平成22（2010）年に地元を中心とした作家30名以上が参加し運営を開始した展示スペース「SARP 仙台アーティストランプレイス」がある。「作家が育み、作家が育まれる。アートが育み、アートが育まれる。」街をめざしている。
- ・このほか多数の民営ギャラリーが運営されている。

●花座

- ・青葉区一番町で、民設民営の寄席「魅知国定席花座」が平成30（2018）年に開設。仙台初の常設の寄席として、地域の新たな魅力を創出している。



画像：魅知国定席花座 HP より

【ボランティア活動】

●ミュージアム・史跡での解説等サポーター・ボランティア

- ・歴史民俗資料館や富沢遺跡保存館、縄文の森広場においてサポーター及びボランティアが展示解説をはじめ体験活動やイベントの補助などを行っている。
- ・陸奥国分寺薬師堂ガイドボランティア会が、史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設を拠点に史跡・展示のガイドやイベントの補助を行っている。また、仙台城ガイドボランティア会は、史跡仙台城跡本丸周辺において史跡のガイドを行っている。



陸奥国分寺薬師堂ガイドボランティア会の活動の様子

- ・仙台市博物館では、ガイドボランティアが自主的に「仙台市博物館ボランティア三の丸会」を立ち上げ、今年度、設立 25 周年を迎えている。各会員（約 80 名）は展示資料や館庭のガイド活動の他、運営部、研修部、会報部、英語部、資料部のいずれかの部に所属し活動している。（大規模改修工事による博物館休館のため、令和 6 年 3 月まで休会の予定）

●コンクール・せんくらのボランティア

- ・仙台国際音楽コンクールにおいては、「会場運営サポート部門」、「広報宣伝サポート部門」、「出場者サポート部門」、「ホームステイ受入れ部門」の 4 部門に計 250 名のボランティアが登録し、全体の運営を支えている。
- ・仙台国際音楽コンクールの「会場運営サポート部門」に登録しているボランティアは、仙台クラシックフェスティバルにおいても会場での受付や場内案内などに従事し、現場経験を積んでいる。